

事業の進捗状況資料

暮らしと松林をつなげる「松葉の堆肥づくり」事業について

松葉の堆肥づくり事業実行委員会

(1) 共働のきっかけ・必要性

●本市において平成 23 年から松くい虫による被害が大発生した。これまで、行政が薬剤散布や枯損木の伐倒駆除等を行ってきたが、こうした対策は限界に達している。また、松林内の手入れ不足による荒廃や林内の富栄養化も問題となっており、抜本的対策の必要性や保全再生に向けて市民ニーズが高まっている。

●NPO においては、松林は暮らしの一部であり地域にとって大切な役割を担ってきたが、その変化に胸を痛めていた。そこで、これまで蓄積してきた堆肥化に関するノウハウを用いて松林に放置された松葉の堆肥化をすることで地域における松林の重要性を伝えるきっかけづくりをし、現在は連携がとれていない行政と地域をつなげることができる考えた。

●今日松林の保全に関しては、地域の多様な組織が主体となって活動しているが、松枯れ被害の増加や松林の富栄養化などといった問題解決には至っていなかった。そこで、行政とNPOが連携することによって、活動がより具体的で、内容の充実が図られるとともに、その幅が広がるなど様々な可能性が期待できる。その際に、市と自治会などが中心となり、地域の多様な主体が連携して実施されることは地域理解も得やすく、スムーズにすすめることができる。

●NPO のこれまでの知見とこれまでの行政や地域団体の実績を合わせると、短期間に課題解決できる可能性がある。

●地域の自然的・社会的状況は、地域によって様々であり、その地域の状況に応じて実施されることが重要である。また、地域の住民や団体の求めるニーズに順応的に実施されることが重要であるため、柔軟に対応できる市とNPO等との連携が重要である。



松枯れ被害の様子



荒廃した松林

(2) 事業目的

松葉の堆肥づくりを通じて地域住民が松林に対する興味・関心を高め、積極的に松林保全活動を行うことのできる仕組みをつくる。

(3) 事業目標

- ワークショップの開催による住民の関心向上。
- 中学校の教育プログラム導入による若い世代の関心向上。
- 松葉堆肥づくりとできた堆肥の地域での活用（花壇・農地）。



目指す松林の姿

(4) 事業内容

① 松葉の堆肥化活動

- ・西区今津で松葉を採取し堆肥づくりに取り組んでおり、一部ができあがっている。できた堆肥は実験的に野菜の種をまき、生育に障害のないことを確認。8月のワークショップの際に参加者に配布した。今後、できた堆肥を市内のイベントにて配布しPRしていく。
- ・8月のワークショップで三苦の松林の中にコンポストを設置し、堆肥化をすすめている。今後は奈多の松林や和白中学校にもコンポストを設置し、堆肥化をすすめる予定である。

② 地域連携活動

- ・地域の自治協議会や地元の松林保全団体への事業説明。
- ・地域住民の松林に対する関心や利用状況を知るためのアンケート実施。
- ・「松林の現状を知り、私たちができること」をテーマにワークショップを実施。

日時 平成27年8月2日(日) 10:00~12:30

場所 奈多公民館、奈多漁港付近の松林

参加者 18名

- 内容
- ・松林に対するポジティブ・ネガティブな感想、思い出等の意見交換をした。
 - ・松林に対して現状を改善する方策について意見交換を行った。
 - ・松林保全団体(奈多植林会、三苦松林再生会)と福岡市が、それぞれ松林に対する取組について発表し、啓発活動を行った。
 - ・実際に松林へ行き、松林の現状や、松葉の堆肥化作業に実演を交えながら説明した。
 - ・今後、奈多・三苦地域の松林保全団体の活動に積極的に参加し、連携を強めるとともに松葉の堆肥化作業を広めていく。

<ワークショップ風景>



③ 学校教育活動

- ・和白中学校と、教育プログラム導入に向けて協議を4回行い、総合学習への組み込みを行った。
- ・職場体験学習にきた中学生に、松林に興味をもってもらうきっかけとして松葉の堆肥づくりを体験してもらった。
- ・和白中学校1学年の生徒に対し、松林に対する関心やイメージを知るための事前アンケートを実施。
- ・和白中学校1学年の生徒に対し、総合学習の授業内容の1つである「松林清掃」事前学習に参加し松林の必要性和松林清掃の重要性等を説明予定。



(5) NPOと市の役割分担

福岡市・・・情報提供、広報、及び普及活動、関係機関との連絡調整

NPO・・・松葉の堆肥化と作成指導、イベントの開催

(6) 共働事業のメリット・成果

- ・共働事業に取り組むことで、新しいネットワークが生まれた。
- ・和白中学生への松林に対する教育活動が可能になった。
- ・ワークショップを開催したことで、松林に関する地域住民の関心の低さなどの現状の課題が判明したと同時に松林に対する熱い思いが伝わってきて、事業の取り組みの重要性を再確認できた。

(7) 共働するうえで苦勞した点・工夫した点

- ・地元の松林保全団体とNPO,行政の目標(白砂青松)は同じなのだが、手法や活動頻度が異なるため、お互いの意思の疎通や足並みをそろえるのに苦勞した。
- ・信頼関係が構築できるまで顔を合わせて進めることの重要性を痛感した。

(8) 担当者の声・市民の声

- ・ワークショップ実施に向けての手法や進め方について勉強になった(福岡市)
- ・始まったばかりで、すべてが快調というわけにはいかないが、一つ一つ丁寧に連絡を取りながらすすめていきたい。(NPO)
- ・松林について知るきっかけとなった、堆肥づくりが進むことによって松林がきれいになればいいなと思った。(ワークショップ参加者)

(9) 28年度への展開

<共働事業継続>

- ・今後、奈多・三苦地区における活動の発展的な取組と、西区今津地区の海岸松林についても活動を広げていく。
- ・地域のニーズに合わせて事業内容を柔軟に対応していく必要があり、初年度の実績と経験を活かして共働事業として継続して取組む必要がある。

① 松葉の堆肥化活動

- ・堆肥の実用に向けた実証実験
- ・試作した松葉堆肥を、地元農家を中心に試用してもらい、農産物における変化や効果についてモニタリング検討。

② 地域連携活動

- ・今津地区にて地域と連携した松林内での堆肥化活動
- ・公民館、自治会などと共に松林に関する地域住民の関心の関心向上に向けての活動。

③ 学校教育活動

奈多・三苦地区について

- ・和白中学校にて、校内での堆肥づくり活動など発展的に学校教育に取り組んでいく。

今津地区について

- ・小学校の学習プログラムの実施に向けて取り組む。

(予算 2,100 千円程度)